

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第7回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第7回 奈良公園の自然（奈良公園・飛火野周辺）

実施日：11月1日（土）9:00～12:00

参加者：8名（学部生：6名、院生：1名 教職大学院生：1名 教職員：杉山、河野）

概要：奈良公園をフィールドに身近な自然を活かした遊びを通じた学びのアクティビティを体験します。

スケジュール	
9:00	春日大社表参道・飛火野バス停集合
9:05	御蓋山を遥拝：春日山・御蓋山・若草山を眺める
9:20	浅茅ヶ原園地・春日大社参道脇のムクロジ
9:30	春日大社参道から飛火野奥（神獻木の柵）～鹿苑
10:00	春日大社参道～ささやきの小径～芋畠
10:30	芋畠にてプログラム
11:30	芋畠～飛火野
12:00	飛火野にて解散

■概要

参加は8名と多かった。なかなかじっくり訪れることがない奈良公園の自然を観察するプログラムとした。25マスのフィールドビンゴを用意し、道中でそれぞれ項目を探して欲しいと伝えた。最初は、飛火野にある御蓋山遥拝所まで移動して御蓋山を眺める。この日は春日山が雲に覆われ、御蓋山の山の形をはっきりと見ることができた。その後、浅茅ヶ原のイチイガシを観察したのち、春日大社参道の竹の生えたムクロジを観察。なぜ、竹が生えたのかを考えてもらい、シカの影響について考えてもらった。散策しながら、どんぐりや木の葉などを拾い触って樹種による違いについて体験した上で、ささやきの小径から、芋畠へ移動。芋畠では30分程度、話をせずに自然の中で一人で過ごすという体験をしてもらう。寝転んだり、歩き回ったり、それぞれの感じ方・楽しみ方で自然と触れ合った。その後、葉っぱを使った「葉っぱジャンケン」「葉っぱのグラデーション」等を行い、身近な自然物をつかったアクティビティを体験し、遊びの中に科学的な視点もあることについて解説した。その後、芋畠から再び飛火野まで抜けて終了した。

■写真

		
フィールドビンゴの解説	竹の生えたムクロジ	芋畠で五感の体操



それぞれ自然の中で過ごす



葉っぱじゃんけん



葉っぱのグラデーション